

## 膵癌術前治療研究会（PREP）設立の趣旨

平成 25 年 5 月 9 日

膵癌は外科治療や薬物療法が進歩した現在においてもその治療成績は極めて不良で、その治療成績改善は急務です。膵癌に対して長期生存を可能にするのは根治切除であり、術後補助化学療法に関しては、前向き比較試験の結果が積み重ねられ、切除後の生存率が向上しつつあります。

しかしながら、切除を企図した場合でも、開腹時点で切除が不能な場合がしばしばあり、また仮に切除ができて、周術期合併症・回復遅延等により、術後補助療法が施行できないことも少なからず経験されます。このことは、手術先行の治療戦略の限界を示唆するものであり、術前治療に期待が寄せられる所以です。他の癌腫（食道癌、乳癌等）ではすでに有効性が示され、実臨床として行なわれている術前治療ですが、膵癌に対しては未だに探索的な検討が行われているのに過ぎません。

これまで、膵癌に対して術前治療を行なっている施設はごく限られておりましたが、全国規模の臨床試験（Prep-02/JSAP-05 試験）が開始され、術前治療が広く認知されるに至りました。しかし、膵癌術前治療は、診断・切除適応・化学療法・放射線治療・手術を含め、未だ多くの課題があり、問題点を抽出して解決して行く必要があります。

以上の観点から、膵癌治療を行なっている医師が集まり意見交換をしながら、膵癌術前治療の共通プロトコールを作成し多施設共同臨床試験を遂行することで、膵癌治療のエビデンスを創出すること、を目的として設立するものであります。

膵癌術前治療研究会  
代表世話人 海野倫明  
事務局長 元井冬彦  
(文責)